

新潟県

教育月報 12月号

第719号
平成21年12月1日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

<今月号の記事>

子どもたちの「生きる力」をはぐくむ体験活動

----- P 1～4

子どもたちの「生きる力」をはぐくむ体験活動

生涯学習推進課・義務教育課・県立青少年研修センター・県少年自然の家

はじめに

新しい学習指導要領では、自然体験活動等を通して道徳性や社会性を育成することなど、体験活動の重要性が示されています。子どもたちが自ら学び主体的に判断する資質や、他者と協調し思いやる豊かな人間性など「生きる力」をはぐくむ上で、様々な体験活動の機会を提供することが重要です。

本号では、体験活動に関わる国の動向や、県教育委員会、県立青少年教育施設における取組、県内の小学校で行われている長期宿泊体験活動の具体的な事例を紹介します。これらを参考に、各学校や地域で体験活動の充実を図ってください。

体験活動の重要性を踏まえた国の動向

近年、子どもたちを取り巻く環境の変化などから、基本的生活習慣の乱れや希薄な対人関係、直接体験の少なさなどが課題となっています。そのため、平成19年1月の中央教育審議会答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」において、青少年の意欲を高め、心と体が相伴った成長を促すために、すべての青少年の生活に体験活動を根付かせるよう提言されました。

また、平成20年7月に閣議決定された「教育振興基本計画」では、関係府省が連携して、すべての小学校で自然体験・集団宿泊体験を一定期間（例えば1週間程度）実施できるよう目指すとともに、そのために必要な体験活動プログラムの開発や指導者の育成を支援す

ることが示されています。

県教育委員会では、子どもたちの「生きる力」をはぐくむために、これらの支援策を活用して、小学校での長期自然体験等の活動が実施できる環境整備や、放課後や週末の子どもたちの体験活動・交流活動等の場づくりを、学校・家庭・地域と一体となって進めています。

県立青少年教育施設での支援と取組

1 県立青少年研修センター

越前浜の豊かな自然環境の中で、青少年が仲間との宿泊生活や研修活動を行うなど、学校や家庭では得難い体験学習ができます。

(1) 小・中・高校別の利用事例

学校の利用に際し、研修目的に応じたプログラム作成や施設所属の社会教育主事による指導を行っています。

①小学校の例

角田山登山、キャンプファイヤー、野外炊さん、ウォークラリー、ネイチャークラフトなど、近隣の自然環境をふんだんに活用した「自然体験教室」を実施しています。

②中学校の例

登山や野外炊さんなどの体験を通じて、仲間との新しい人間関係づくりをすることを目的とした宿泊研修を実施しています。

③高等学校の例

人間関係づくり、学習法習得、学力向上等をねらいとした活動を中心に利用されています。また、野外活動と屋内研修の両方に対応

できる当施設の特徴から、部活動の合宿等での利用も増加しています。

(2) 主催事業

中学生、高校生対象のリーダー研修のほかに、自然体験活動や環境教育等、一般の方を対象にした青少年指導者養成事業を実施しています。



【中学生リーダーカレッジ】

(3) 成果

これまでに、当施設を利用された学校の先生方からは「学年の結束力を高めることができた」「子どもたちの自主性や協調性を養うことにつながった」などの声が寄せられています。

2 県少年自然の家

美しい赤松の天然林に囲まれた施設で、社会教育主事の指導のもとに様々な体験学習ができます。

(1) 豊かな体験活動

赤松林での野外活動、胎内川河口や日本海でのカヌー体験活動等、様々な体験活動プログラムを行っています。



【カヌー体験活動】

①幼稚園・保育園の例

うどんづくり、もちつき等の体験を通して、親子や家族のふれあいを高めることを目的として利用しています。

②小学校の例

カヌー体験、キャンプファイヤー、野外炊さん、野外ゲームなどを組み込んだ「宿泊型自然体験教室」等の活動を行っています。子どもたちから、「思いやりや協力することの大切さを学びました」などの感想が聞かれます。

③中学校の例

野外炊さん、野外ゲームなどの体験を通して、仲間づくりや人間関係づくり等を支援しています。先生方からは、「学級や学校で協力する姿が多く見られるようになりました」などの評価を得ています。

(2) 主催事業

主に小学生やその家族を対象とした事業を実施しています。今年度は、グループ別に料理をつくり、みんなで食べるバイキング形式の野



【間伐材を使った創作活動】

外炊さんを行いました。また、胎内型ツーリズムと連携しての、間伐材を使った創作活動やヤギの乳搾り体験等も大変好評でした。

(3) 成果

利用者からは、カヌー体験など大変好評をいただいています。また、小学校の「宿泊型体験教室」では、普段の学校生活では得難い体験をして、少したくましくなった子どもたちの様子が見られます。今後も、皆様の要望を踏まえた魅力的なプログラムを開発していきます。

小学校における長期宿泊体験活動

1 柏崎市立鯖石小学校の取組

鯖石小学校では、5・6年生16名を対象に、8月に2泊3日の宿泊体験活動を2回(8/4～6,8/26～28)実施しました。

(1) 津南町農村民泊体験活動

4班に分かれ4軒の農家に民泊し、農業体験(養鶏、ベリー栽培、養豚、乳牛)や、農家の方と一緒に食事づくり・家事等の体験を行いました。



【民泊先での食事づくり】

(2) 同一中学校区交流宿泊体験活動

同一中学校区の南鯖石小5・6年生と一緒に妙高自然の家に宿泊し、仲間で協力する活動(オリエンテーリング、野外炊さん等)や自然に親しむ活動(星空観察、源流体験)を行いました。

(3) 成果

3日間の農村民泊では自分の生活や家族をじっくりと見つめ、自立心を養うことができ

ました。また、交流宿泊では民泊経験を生かして、来年度中学校で一緒になる仲間と、自分たちから積極的にかかわるなど、社会性や人間関係構築能力を高めることができました。

2 胎内市立中条小学校の取組

「つばさっ子体験隊2009～ふるさとのよさ発見！地域に学び、地域を学ぶ～」をキャッチフレーズとして5年生122名が、9月7日～9月11日の4泊5日の日程（農家2泊、公共宿泊施設2泊）での長期宿泊体験活動を実施しました。

(1) 活動を通して児童に「付けたい力」の設定

- ①課題解決に向けた判断力・思考力・表現力
- ②交流を通してのコミュニケーション能力
- ③共同活動等による協調性と思いやりの心
- ④ふるさと「胎内市」を愛する心

(2) 活動内容と成果

課題別グループに分かれ、胎内市の食文化や自然環境、産業について、追究活動を実施しました。



児童は、ヤギの搾乳、昆虫調査、笹団子づくりなどの地域の特色を生かした2日間の体験活動を通して、「ふるさと胎内市」のすばらしさをじっくりと味わい、実感することができました。また、25軒の農家に2日間分宿することを通して、家族の一員として進んで手伝ったり、農家の生活について質問したりして積極的にかかわり、コミュニケーション能力や協調性を高めました。

【ヤギの搾乳体験】

県教育委員会の施策・事業

1 尾瀬子どもサミットの開催

尾瀬の自然を通して、次代を担う子どもたちの自然保護に対する意識を高めることを目的として、毎年行っています。尾瀬でつながる、新潟県、福島県、群馬県の小学5年生から中学3年生の児童生徒が、各県20名ずつ公募により選ばれ、7月28日～31日の3泊4日の日程で尾瀬ヶ原において、体験交

流活動等を行いました。

3県の子どもたちは、自ら積極的に意見を述べたり、互いの意見を尊重し合ったりしながら、グループ学習や意見交換会を行いました。



参加した子どもたちは、活動

【動植物の観察】

を通じて、問題解決や自然保護の活動に主体的に取り組むたくましさを身に付けていきます。また、自然体験を通して、普段の生活の中でも、環境保全に取り組む大切さを改めて認識しました。

尾瀬子どもサミット 活動の概要

第1日	○開会式 ○開会イベント ○尾瀬レクチャー ・ビジターセンター職員による、尾瀬の自然や動植物についての説明等
第2日	○フィールド活動 ・自然保護活動 ・動植物の観察 ・ハイキング ○全体交流会 ○グループ意見交換会
第3日	○グループ学習・観察レポート作成 ○グループ意見交換会 ○全体発表会 ○県別意見交換会
第4日	○閉会式 ○知事報告会（県庁にて） ・知事、教育長と児童生徒の懇談

2 小学校自然体験活動指導者の養成

小学校が実施する1週間程度の長期自然体験活動を支援するため、文部科学省の委託を受け、平成20年度から小学校自然体験活動指導者養成研修を実施しています。今年度は、10月31日と11月1日に県少年自然の家で、11月14日と15日に県立青少年研修センターを会場として、2回4日間の日程で実施しました。

研修会には、学校、農山漁村民泊受入地域、社会教育団体等に関係する方々が参加しました。研修では、講義や実践を通して、「学校教育における体験活動の意義」「自然体験活動の技術」



【「自然体験活動の技術」の研修】

「安全管理」等、指導者として必要な知識や技能の修得を図りました。参加者からは、「学校と指導者との連携の必要性を感じた」「今後の指導に生かしたい」等の感想が聞かれました。



【「安全管理」の研修】

研修会のすべての日程に参加した12人の修了者は、国立青少年教育振興機構に登録され、関係機関にも情報提供されます。小学校が体験活動を行う際には、学校と連携して活動計画を立てたり、プログラムの提案や指導の補助を行いますので、詳しくは、県教育庁生涯学習推進課までお問い合わせください。

3 放課後子ども教室の推進

平成19年度から始まったこの文部科学省補助事業は、放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して活動できる居場所を確保し、子どもたちを地域社会の中で健やかにはぐくむことを目的に、市町村が取り組んでいます。教室では、地域の方々がコーディネーター、安全管理員、学習アドバイザーなどとして参画し、学習活動やスポーツ・文化活動などの様々な体験活動や地域の方々との交流活動を行っています。(平成21年度は、18市町村112か所で実施)



【生け花教室】

教室での体験活動を通して、子どもたちの創造する喜びや達成感が涵養されたり、子どもたちが学年を越えて交流を図る中で、責任感や



【団子づくり体験】

自主性が育成される等の成果をあげています。

県教育委員会では、これらの活動に参画する方々を支援するため、「放課後子ども教室指導者研修」を開催しています。県内外の先進事例の紹介や、参加者がワークショップによる課題解決に向けての検討等を行い、活動に参画する方々の資質向上と情報交換、課題解決の場になっています。

おわりに

県教育委員会は、体験活動の大切さを広く周知するとともに、これらの活動を支援していきます。

今回、紹介した県立青少年教育施設の取組のほかにも、社会教育団体や市町村立青少年教育施設等で、青少年の「生きる力」をはぐくむ体験活動が行われています。各学校においては、新学習指導要領の趣旨に添って、自然体験活動に取り組んでいただきますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

新潟県教育庁生涯学習推進課 青少年家庭教育係
TEL 025-280-5617

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/syogaigakushu/index.html>

新潟県教育庁義務教育課 指導第2係
TEL 025-280-5605

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/gimukyoiku/>

新潟県立青少年研修センター
TEL 0256-77-2111

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/seisyounen/>

新潟県少年自然の家
TEL 0254-46-2224

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/shizen/>

発行所 新潟県教育庁総務課

所在地 〒950-8570

新潟市中央区新光町4番地1

電話 025-280-5587 FAX 025-285-3766

E-mail ngt500010@pref.niigata.lg.jp

HP版URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/kyoikusomu/>

本紙に関するご意見がありましたら、お寄せください

<無断転載を禁ず>